

「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に関する調査・研究

| | | | |
|-------|------|-------|------|
| 教科教育室 | 真鍋昌嗣 | 横田義広 | 都築克征 |
| | 亀岡修 | 牧ゆかり | 近藤安美 |
| | 加藤伸弥 | 藤野由起子 | 飛田善広 |
| | 三瀬裕子 | 松田詩織 | 越智亮平 |
| | 嶋家健市 | 和田知子 | 清水裕士 |

1 研究の目的

新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、児童生徒に生きる力を育むことが求められている。1年次の研究で教員に行った、授業改善に関するアンケート調査からは、「新学習指導要領に関する理解に不安を感じている」「個で行う教科指導力を高める取組に比べて、学校組織で学ぶ研修の機会が少ない」という課題が見えてきた。そこで、本年度は、学校全体で教育課題に対する理解を深め、解決を図ることができる校内研修となるよう、授業改善の手立てについての研修パッケージを作成し、協力学校に活用を依頼して、その有効性を検証することとした。

2 研究の内容

(1) 研修パッケージの作成

1年次に行ったアンケート調査の、授業改善の取組に関する項目（14項目）から、特に教員が求めていると考えられるものを校内研修で取り上げるテーマとして選択し、「学習指導要領についての理解」や「教科等を横断した教育課程の設定」等の5種類の研修セットを作成した。協力学校には、それらをまとめた研修パッケージを提供し、学校の実態に応じて研修セットを選択できるようにした。各研修セットは、研修動画を視聴し、研修を深めるために協議や演習を行う構成で、所要時間は約40分である。研修動画に加えて、配付資料、企画書（研修進行案）、演習や協議で使用するワークシート等を提供し、各学校でできるだけ負担なく校内研修が実施できるよう工夫した。

(2) 協力校における実施とその後の活用

ア 校内研修での活用

協力学校（小学校2校）において、研修セットを活用して校内研修を行った。研修後のアンケート調査で、全ての教員が「研修で学んだ内容は、指導に生かせると思う」と回答した。中には、指導に生かすためにどのような配慮や工夫が必要であるかを考えた記述も見られ、研修を通して、授業改善の具体的なイメージがつかめたのではないかと考える。管理職からは、「教職の経験年数に関係なく、全ての教員にとって効果的な研修内容だった」という回答があり、本研修パッケージが校内研修充実の一助になったと考えられる。

イ 授業改善の取組

協力学校の教員は、校内研修終了後、学んだ内容を生かして授業改善に取り組んだ。実践後のアンケートでは、「各教科で単元の目標やゴールを意識した授業を考えるようになった」「児童の書く力に成長が見られた」「考え、発言できる児童が増えた」という記述があり、教員自身が自分の成長を感じたり、児童の変容に手ごたえを感じたりしている様子が見られた。また、研修担当者からは、「研修パッケージは短時間で効率良く校内研修ができる」という感想もあった。これらのことから、研修パッケージが授業改善に役立ったと考える。

3 研究のまとめ

協力学校では、研修パッケージの活用により、校内研修が充実し、授業改善につなげることができた。このことから、研修パッケージは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に効果的であったと考えるが、より多くの学校や教員が活用できるように、作成した研修セットの見直しが必要である。また、協力学校から課題として挙げられた、ICTを活用した効果的な学習指導の在り方に関する研修セットの作成も検討していかなければならない。今後も研修パッケージについて周知を図るとともに、全ての学校、全ての教員への研修支援の在り方を研究していきたい。